

## 実践現場に向けた雑誌を目指して

### 趣旨

スポーツパフォーマンス研究の発刊をきっかけに、体育・スポーツの実践研究に関するフレームワークや方法論が提案され (Editorial 2018; 福永・山本, 2018), 議論が続けられている (Editorial 2019, 2020). このような議論は、スポーツパフォーマンス研究が科学として成立するために不可欠である. 一方このような議論の過熱によって、「(本当の本当に) 実践現場に役立つための情報とは何だろうか?」といったシンプルな議論が置き去りになってきたかもしれない. これは「実践活動に直接寄与する知見を提供すること」を標榜する本誌が常に問い続ける必要があるテーマである.

そこで, Editorial2021においては, 実践現場で指導する編集委員・投稿者にあえて「科学」という視点を棚上げしてもらい, 純粋に実践現場に必要な情報は何かについて書いてもらうことにした. 例えば, 投稿者/読者の中には, もっと実践現場で感じたことを「主観的」に書きたい/読みたい, トップ選手はどのような「感覚」で動いているのかについて書きたい/読みたい, あるいは, 一流指導者はどんな「思い」で指導しているのかを知りたいと思う実践者は多いだろう. しかし, 査読過程の中でこのような記述が客観性・根拠を欠くという理由で削減されることは残念ながら少なくない. ただ, 実践現場にとっては, 「根拠となる情報」が必要なのではなく, 「やってみたいと思う情報」が必要なのではないだろうか?

このEditorialを通して, 実践現場で活動する編集委員や投稿者が考える実践に役立つ情報を読者/投稿者/査読者の皆様と共有し, スポーツパフォーマンス研究が真に実践現場に貢献する雑誌になるための議論のタネとしていただければ幸いである. 「科学」という視点を一旦棚上げすることで我々が得られるものは何か? が垣間見えれば, この企画は成功である.

2021年3月

スポーツパフォーマンス研究編集委員会

竹中健太郎 / 中本浩揮

### 著者 (abc順, 敬称略)

* 藤井雅文	* 萬久博敏	* 松村 勲	* 三浦 健	* 中村夏実
* 縄田亮太	* 下川美佳	* 鈴木智晴	* 椿 武	